

## 「地域環境セミナー」について (7年度, 8年度)

溝上 鈴子 高橋 秋彦 小宮祐一郎※ 山口 博之 岩本条治郎

## Local Environment Seminar (1995, 1996)

## はじめに

最近の環境問題は、生活排水や廃棄物等のいわゆる都市・生活型や地球環境問題へと移り変わってきているが、これまでは、環境保全に対する啓発活動の一環として、環境月間に小学生を対象とした環境教室や、夏休み等に簡易生物調査を実施してきた。

7年度から新規3カ年事業として、一般県民を対象とした「地域環境セミナー」を開催しているが、今回、7年度及び8年度の事業概要及び問題点等について報告する。

## 事業概要

## 1. 目的

環境に関する知識の習得や、人と環境との関わり合いについて理解を深め、ライフスタイルの見直しや環境保全に対する気運を高めることを目的として実施した。

## 2. 開催方法等

7年度及び8年度とも3会場で開催し、一般県民を対象として一会場当たり約30名を募集し、期間中毎月1回計4回シリーズで開催した。開催状況を表1に示す。

## 3. 実施内容

7年度及び8年度に実施した内容を表2に示す。毎回テーマを第1回「地球環境を考える」、第2回「生活排水を考える」、第3回「施設見学」及び第4回「ごみ・資源を考える」とした。

第1回と第2回では、テーマに関する講話の後、受講者はグループ毎に分かれて、「調べてみよう、身近な環境と私たちの暮らし」と題し、自動車の排気ガスや持ち寄った家庭排水についての簡易測定を体験してもらった。

第3回は県庁バスを利用して、各地域のごみ処理施設等の見学を行った。

第4回は講話と講演の後、環境にやさしい生活について討議する時間を持ち、セミナーに対するアンケート調査を実施した。

表1 開催状況

年 度	7 年 度	8 年 度
開 催 期 間	7月～10月 毎月1回 13:30～16:30	8月～11月 毎月1回 9:30～12:00
開 催 会 場 (開 催 場 所)	佐賀会場(環境センター) 34名 神埼会場(神埼保健所) 35名	小城会場(小城保健所) 32名 唐津会場(唐津保健所) 39名
受 講 者 数	武雄会場(武雄保健所) 38名 計 107名	鹿島会場(鹿島保健所) 46名 計 117名

受講者には修了証を交付し、今後も環境保全活動への積極的な参加や呼びかけを行ってもらうようお願いした。

内容として簡易実験や見学などを取り入れ、環境についての理解が深められるよう工夫した。また、8年度は環境家計簿の紹介やクイズ形式による講話も一部取り入れた。

これらは、受講者から大変有意義であったと喜ばれ、また身近な環境について認識を新たにすることに効果的であった。

さらに、「地域環境セミナー」を県民に親しまれ普及させるために、マスコットキャラクターを作成し、ポスター等に利用した。

表2 実施内容

7 年 度	8 年 度
<p>25日 (佐 賀) 第1回 7月 26日 (神 埼) 28日 (武 雄)</p> <p>1. 開講式 2. 「県内の環境について」 3. テーマ「地球環境を考える」 4. 実 習 — 大気簡易測定 ・フィルターバジによる大気中NO<sub>2</sub>測定 ・排気ガス中窒素酸化物と酸性雨関連</p>	<p>22日 (鹿 島) 第1回 8月 29日 (小 城) 30日 (唐 津)</p> <p>1. 開講式 2. 「県内の環境について」 3. テーマ「地球環境を考える」 4. 実 習 — 大気簡易測定 ・排気ガス中窒素酸化物と酸性雨関連 ・燃焼-CO<sub>2</sub>と地球温暖化関連</p>
<p>24日 (佐 賀) 第2回 8月 25日 (神 埼) 29日 (武 雄)</p> <p>1. テーマ「生活排水を考える」 2. 実 習 — 水質簡易測定 ・パックテストによるpH、COD測定 河川水、生活排水等</p>	<p>25日 (小 城) 第2回 9月 26日 (鹿 島) 30日 (唐 津)</p> <p>1. テーマ「生活排水を考える」 2. 実 習 — 水質簡易測定 ・パックテストによるpH、COD測定 河川水、生活排水等</p>
<p>26日 (神 埼) 第3回 9月 27日 (佐 賀) 29日 (武 雄)</p> <p>1. テーマ「施設見学」 ・一般廃棄物焼却施設 (佐賀、武雄) ・農業集落排水処理施設 (神 埼) ・ポリスチレン再生処理工場 (神 埼)</p>	<p>23日 (小 城) 第3回 10月 25日 (鹿 島) 29日 (唐 津)</p> <p>1. テーマ「施設見学」 ・一般廃棄物焼却施設 (小 城) ・下水処理場 (唐津、鹿島)</p>
<p>17日 (神 埼) 第4回 10月 18日 (佐 賀) 20日 (武 雄)</p> <p>1. テーマ「ごみ、資源を考える」 2. 講 演「自然環境と共生した町づくり — 西欧4カ国の視察研修報告」 3. 討 議「環境にやさしい生活について」 4. 閉講式</p>	<p>19日 (小 城) 第4回 11月 21日 (鹿 島) 26日 (唐 津)</p> <p>1. テーマ「ごみ、資源を考える」 2. 講 演「EM菌による ごみ減量化について」 3. 討 議「環境にやさしい生活について」 4. 閉講式</p>

## 4. 出席状況

毎月の出席率を表3に示すとおり、毎回約60～80%程度の出席率であった。3回以上の出席者をセミナー受講修了者としたが、両年度とも76名であった。

また、セミナー受講を希望したものの0～1回の出席に終わった人は、7年度17名、8年

表3 出席状況

年度	第1回	第2回	第3回	第4回	備考
7年度	80/104 77%	73/107 68%	68/107 64%	74/107 69%	3回以上出席者 76名71%
8年度	93/117 79%	94/117 80%	75/117 64%	69/117 59%	3回以上出席者 76名65%

## 5. アンケート調査結果

## (1) 開催時期について

7年度は夏季の午後から開催したため、午前中に開催希望が多かった。このため8年度は1月遅くし、午前中開催とした。

## (2) 講話の内容及び実験について

講話の内容は大部分がやさしいと回答。また、身近なテーマについての簡易実験は、ほとんどの人がしたほうが良いと回答している。

## (3) 今後取り上げて欲しいテーマについて

EM菌ぼかし作りやリサイクルの実例を知りたいとか環境ウォッチングなどがあった。

## (4) 受講者からの意見・感想等

有意義であったとの感想の他、日常生活の中で環境について考えるようになったこと、まずは家庭の中から気をつけること、もっと多くの人に受講して欲しい、子供達へも伝えて欲しいなどの意見があった。

## 6. 地域環境セミナーを開催しての問題点

(1) セミナー開催のPRや受講者募集をラジオ、テレビ、ポスター、チラシ及び県民だよりなどで行ったが、平日の昼間に開催したため、一般応募は少数であった。消費者グループなどの団体や他のセミナー受講者に参加協力をお願いした為、受講者は主婦や高齢者に片寄り、講話の内容についてもわかりやすく、興味関心を引き

出す工夫が必要であった。

3回目の施設見学は、婦人会等他の活動グループで見学したことがある受講者が多く、出席率が低かった。

8年度は、市町村及び企業等の環境部門の方の受講も一部あった。

出す工夫が必要であった。

(2) 専任の環境教育担当がいなかったため、通常業務の中、不慣れな広報活動に始まり、講話のテキスト作成や実験のプログラム作り等が大変であった。

(3) 講師等の情報を日頃から集めておく必要があった。

## まとめ

(1) 最近の環境問題が、一人一人の生活といかに関連したところから生じているのかを、分かり易い視点からとらえたこのセミナーについて、受講者からの評判は大変良く、また環境に対する理解や関心を大いに示してもらえた。

今後も環境啓発事業を継続していく必要がある。

(2) 受講者の感想から、家庭や地域で環境に対する自主的な活動を起こしたい気運が感じられ、それを支援する体制を整備する必要がある。

## 謝辞

環境保全課、廃棄物対策課、保健所及び消費生活センターの皆さんの御協力によって、受講者の皆さんに喜んでいただけたセミナーを開催できたことをここにご報告し、厚くお礼申し上げます。